

都市におけるひとり空間に関する研究

A Study on Solitary Spaces in Urban Contexts

○吉岡初花¹, 大川碧望², 佐藤慎也²Hana Yoshioka¹, Aono Okawa², Shinya Satoh²

The study aims to clarify how a single space is structured in the city and the conditions under which it actively supports it. In modern city life, as people-to-people connections become more diverse and complex, the importance of spending time alone is attracting attention. However, in urban space, personal space is not always well planned. It is necessary to theoretically consider how the comfort of a single space is architecturally designed. As a research method, read a single space from the social background, etc., and clarify the conditions and settings that function as a single space based on examples. Ultimately, this study aims to contribute to architectural design and planning by providing it as a plan for urban public facilities as a method of spatial planning.

1. 序論

1-1. 研究背景

現代の都市生活において、人と人とのつながりが多様化、複雑化する中で、ひとりで過ごす時間や空間の重要性が改めて注目されている。それにより、ひとりの時間に特化した空間が都市の中に点在するようになってきた。しかし、都市空間において、ひとり空間は必ずしも十分に計画されているわけではなく、特に公共性の高い都市環境においては、集団性や流動性のほうが重視されている。そして、建築物は、個人が快適にひとりでいられる空間とは何かという問いに対して、どのように対応できるのかが問われている。SNSやリモートワークの普及により、物理的にひとりでいても常に他者とつながっている状況が当たり前となり、周囲に他者が大勢いる状況でもひとりの空間を意識的につくり出すことが可能である。都市における公と私の間位置する空間は、既存の空間分類の枠組みでは捉えきれない曖昧さや新しさを内包しており、その建築的な位置づけを改めて問い直す必要がある。また、物理的条件に加え、利用者の心理的・社会的な背景との相互作用によるひとり空間の快適性が、いかに建築的に設計、支持されているのかを理論的に考察する必要もある。

1-2. 研究目的

都市におけるひとり空間に着目し、それがいかに建築的に構成され得るか、都市という群衆の中で「ひとりでいること」を意識できる空間の特徴や、壁で隔たれずに閉鎖的でない空間であっても、ひとり空間として機能する条件を明らかにする。

1-3. 研究方法

文献調査を主体として、2章では、ひとり空間に

ついて社会的背景などから読み解く。3章～5章では、ひとり空間の事例、また、ひとり空間として機能する条件や設定を明らかにする。

2. 都市のひとり空間

2-1. おひとりさま社会

2000年代以降、30～40代の単身女性である「おひとりさま」に消費文化の視点から注目したジャーナリストの岩下久美子『おひとりさま』や、社会学者の上野千鶴子が単身高齢者に着目した『おひとりさまの老後』をきっかけに、「おひとりさま」という言葉が流通していった。また、単独世帯が最も多い家族類型となり、一般化していった。おひとりさまは、飲食、美容、旅行業界など、市場拡大を目指すためのマーケティングとしても利用された。ひとりをめぐる現象は、肯定的なものばかりではなく、孤独、無縁社会といったネガティブなイメージとも結びついている。

2-2. ひとり空間

ひとり空間は、「都市において、一定時間ひとりという状況が確保された空間における人と空間の関係性に着目し、何らかの仕切りによって『ひとり』である状態が確保された空間」¹⁾と定義され、南後由和『ひとり空間の都市論』により提唱された概念である。ここでは、ひとり空間の特徴として、匿名性が確保されていること、家族や学校などの帰属集団から離脱している状態であること、移動可能性というモビリティと結びついてどこでも出現しうることが挙げられている。都市におけるひとり空間は、ネットカフェやカプセルホテル、ビジネスホテルなど閉鎖的で独立型と捉えられる空間、カフェや図書館

1: 日大理工・院(前)・建築、2: 日大理工・教員・建築

のひとり席など公共の場において空間の領域が隔てられて意識的にひとり空間と捉えられる空間、新幹線や飛行機の座席など限定的ながら確保された個人領域が存在する空間を指す。現在の都市空間では、個人と公共が直接リンクしあい、境界が消滅した空間が発生している。スマートフォンやSNSが普及した現代では、独立型の閉鎖的で区切られた空間のみがひとり空間として捉えられるのではなく、物理的に区切られていない、また、周囲に他者が存在する開放的な場でも、一時的に自分のみの領域だと意識できる空間はひとり空間と捉えられる。

2-3. 群衆の中のひとり空間

都市では、様々な行為が行われることで都市として成り立っていることから、ひとりの行動に着目する。SNS、オンラインゲームなどスマートフォンを用いた行為、読書、食事、睡眠、水泳や陸上といった個人スポーツが挙げられる。これらの行動は、都市においてひとりで行うことが可能であり、建築的な個室空間が無くても可能である。近年、都市の中では、これらの群衆の中でのひとり空間が形成されている。

3. カフェのひとり席

「ひとり席」の「設え方」と「使われ方」に関する研究²⁾より、カフェのひとり席は、物理空間では他者と居合わせているが、見えない仕切りによりひとり空間を創出していることがわかる。創出するための設え方として、席が個人の領域となるようにテリトリーが視覚化されている。また、視線が合わないように正面で向き合う席には、間に曇りガラスを設置したり、視線がずれる座席配置などの視線を遮る工夫がなされている。さらに、スマートフォンやパソコン等が利用しやすい設備として、コンセントやWi-Fiなどが設置されている。他者と視線が合わず、テリトリーが確保される壁席は、内的時間を確保しやすく、また、心理的にひとりという状況を確保しやすい。そのため、ひとり空間として利用されやすい傾向にある。

4. ひとりの滞留者

公共施設の滞留空間に関する研究——一人の滞留者に着目して——³⁾より、公共施設において、様々な場所に滞留が発生していることがわかる。商業施設において、ひとりの滞留者は約9割が座っている。立っている滞留者は、壁や柱などの依代に接近して滞

留している。ひとりが滞留しやすい空間として、ベンチなどの座具の有無が関係している。また、柱や壁といった依代が必要であり、それらに接近して滞留している。駅の滞留者は、人数によらず立った状態で滞留している。ひとりの滞留者は、依代からの距離が1m以内での滞留者が多く、遠くなるにつれて滞留人数が減ることから、滞留行動に滞留距離が関係していると考えられる。

5. 移動のための空間

新幹線や飛行機の座席は、公共的な移動空間の中で、個人に割り当てられた一時的な領域であり、周囲に人がいる状況でも、個人のテーブルや照明が設置され、一定の視覚的、身体的な隔たりが生じている。他者との積極的な関わりが抑制されることで自然と内的時間を確保する行為として内向的な意識につながり、ひとり空間としての意識が強まると考えられる。

6. 結論

本研究では、都市における「ひとり空間」に着目し、その社会的背景と建築的特徴を明らかにした。都市生活におけるひとは、孤立ではなく、他者と共にありながら自らの内的時間を確保する行為として位置づけられる。カフェのひとり席や公共施設の滞留、移動空間の座席といった事例から、ひとり空間は壁などの物理的仕切りではなく、視線のずれや依代への接近といった視覚的・身体的な要素により形成されることがわかった。都市のひとり空間は、公と私の間で成立する一時的で可変的な領域であり、個と社会の新たな関係性を構築する建築の可能性を示している。今後は、都市におけるひとり空間の建築的条件をより多角的に検証し、その空間がもたらす心理的・社会的効果についても探求していく必要がある。

参考文献

- 1) 南後由和：ひとり空間、都市はソフトなコミュニティを創れるか、2019.10.26
- 2) 青木侑香、戸田都生男：「ひとり席」の「設え方」と「使われ方」に関する研究、第42回人間-生活環境系シンポジウム報告集
- 3) 岡本治己、伊藤恭行：公共施設の滞留空間に関する研究——一人の滞留者に着目して——、2022年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ、第93号、pp. 209-212、2023.03
- 4) 岩下久美子：おひとりさま、中央公論新社、2001.9
- 5) 上野千鶴子：おひとりさまの老後、文藝春秋、2011.12
- 6) 南後由和：ひとり空間の都市論、筑摩書房、2018.1